

写

27生畜第413号
平成27年6月15日

各地方農政局生産部長
北海道農政事務所長
内閣府沖縄総合事務局農林水産部長

} 殿

(農林水産省※1) 生産局畜産部畜産振興課長

家畜及び飼料作物への暑熱対策に関する技術指導について

今夏の気象状況について、気象庁が6月11日に発表した「全国1ヶ月予報」(6月13日から7月12日)では、北日本、東日本及び西日本にかけて、ほぼ平年並の気温と見込まれていますが、今後の気象状況について、依然として予断できない状況にあります。

このため、家畜及び飼料作物への暑熱対策に関する技術指導を行う際に、参考とすべき事項を下記の通りとりまとめましたので、貴職におかれましては、本年度の暑熱対策について遺漏なきよう適宜御対応よろしくお願い申し上げます。

記

1 家畜

- (1) 飼育密度の緩和や、畜体等への散水・散霧により、家畜の体感温度の低下を図るとともに、換気扇等による送風、換気・寒冷紗やよしずによる日除け、屋根裏への断熱材の設置及び屋根への消石灰の塗布等、畜舎環境の改善を図ること。
- (2) 良質で消化率の高い飼料及び清浄で冷たい水を給与すること。

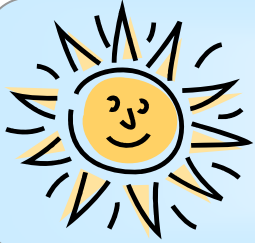
なお、具体的な家畜の暑熱対策及び本件に関する相談窓口については、公益社団法人中央畜産会のホームページを参照のこと。

(家畜の暑熱対策 <http://jlia.lin.gr.jp/seisan/> 相談窓口 <http://jlia.lin.gr.jp/keiei/>)

2 飼料作物

- (1) 草地については、過放牧、過度の刈りや短い間隔での刈取りを避け、貯蔵養分の消耗を軽減して草勢の維持に努めること。
- (2) 土壌条件等により高温及び晴天の影響が大きく現れる地域では、土壌の保水力を向上させるため有機質の多投等を行うとともに、今後、は種する場合には、耐干性の優れた草種・品種を選定すること。
- (3) 青刈りとうもろこし、ソルガム等については、収穫期が近い場合にはコストに配慮しつつかん水に努め、かん水が困難ないし回復が困難と見込まれる場合には、早期に収穫を行い品質低下の防止に努めること。

施行注意：※1は、各農政局及び農政事務所宛ては除く



家畜の生産性を維持・向上する 暑熱対策に取り組みましょう！

今年も暑い夏がやってきます。暑熱により、採食量や受胎率の低下等が引き起こされ、家畜の生産性が損われることを防ぐためには、家畜が健康で快適に過ごせる環境づくりが大切です。

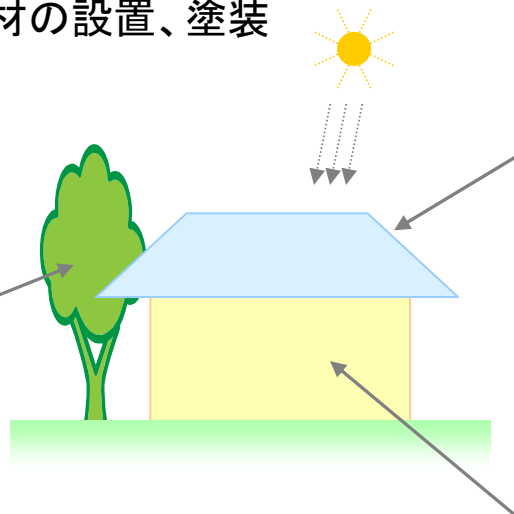
畜舎環境面から

○畜舎外から畜舎温度を下げる

- ・樹木や遮光ネット等の設置
- ・屋根・壁・床への断熱材の設置、塗装



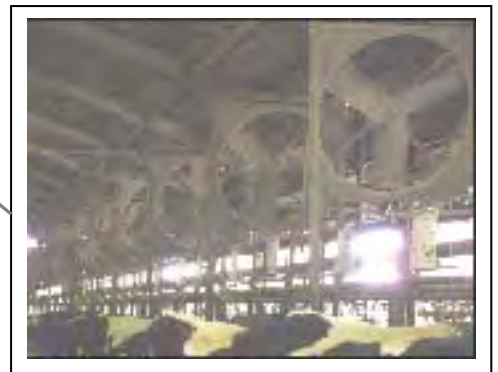
ネットに植物を這わせる(兵庫県)



石灰の吹きつけ(宮崎県)

○畜舎内から畜舎温度を下げる

- ・換気扇や扇風機での送風
- ・家畜への直接送風・散水



換気扇による送風(福井県)

飼養管理面から

○密飼いを避けて、体感温度とイライラの低減

- ・毛刈りの実施(牛)

○飼料給与等の工夫

- ・冷たい水が十分に飲めるようにする
- ・涼しい時間帯に飼料給与するとともに、給与回数を増やす
- ・良質で消化率の高い飼料を与える
- ・必要に応じ、ビタミンやミネラルを給与し、栄養不足を補う

対策を組み合わせると効果的。早めの措置で、暑い夏を乗り切りましょう。



畜舎環境、飼養管理における複合的な対策

取組の概要

地域名 : 新潟県
 経営形態 : 酪農
 飼養頭数 : 搾乳牛50頭

- 十分な飲水の確保→給水管を太くした
- 畜舎温度上昇の抑制
 - 井戸水を利用したスプリンクラー設置
 - トンネル換気の実施(牛舎壁面に換気扇設置)
- 採食量の維持
 - 1日6回に分けて配合飼料を少量ずつ給与(自動給餌機)
 - 盗食防止板の設置により飼料摂取量を適正にコントロール

効果

○夏期の乳量の向上

H20年8月は、前年同月に比較し、
日乳量が0.4kg/頭増加

○分娩間隔の短縮

19年 14.5ヶ月
 → 20年 13.9ヶ月 **0.6ヶ月短縮**

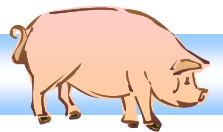


↑牛舎壁面の換気扇



↑牛舎屋根に設置したスプリンクラー

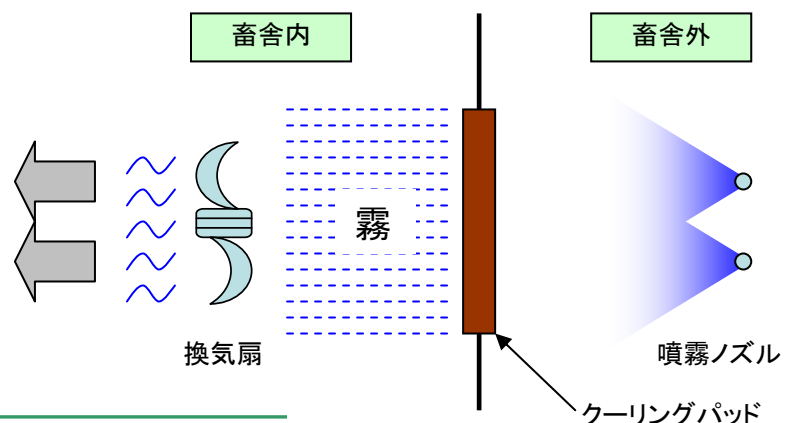
分娩豚舎へのクーリング・パッドの設置



取組の概要

地域名 : 愛知県
 経営形態 : 養豚
 飼養頭数 : 繁殖母豚350頭

- クーリング・パッドの外側に噴霧ノズルが付いており、畜舎内に設置した換気扇により、空気を引く。これによりパッドから抜けた霧が畜舎内に流入する(下図)。
- 噴霧ノズルは、12秒間噴射後、7秒間停止する間隙作動。
- クーリング・パッドは29℃で作動するようにセットされ、作動時間は午前9時から午後6時まで。
- 畜舎中央に順送ファンを設置し、排気口まで風量を維持する工夫。



効果

○パッド作動時の**畜舎内温度**は、外気温と比較し、入気側・排気側とも**平均4℃低かった。**

牛舎屋根への石灰塗布



取組の概要

地域名 : 宮崎県
経営形態 : 肉用牛
飼養頭数 : 200頭

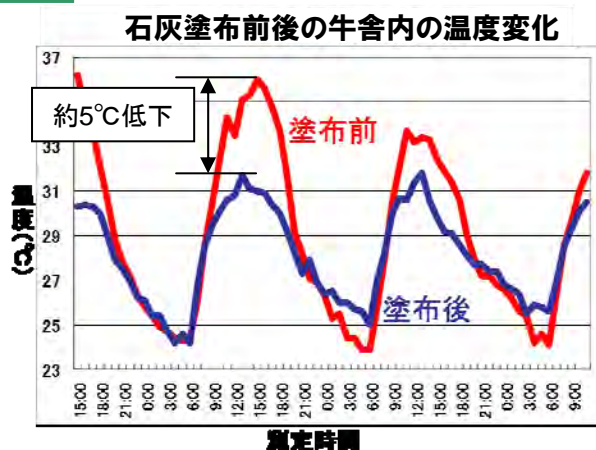


- 【塗布面積】 800m² (屋根材:ガルバリウム)
【作業人数】 5名
【材料】 石灰(牛舎消毒用)、水、動力噴霧機、電動ドリル、かき混ぜ棒、ポリバケツ(大)
【塗布方法】 石灰を水に溶かして石灰乳を作り、動力噴霧機にて屋根へ散布する
【作業時間】 3時間(実質塗布時間:2時間)
【塗布面積あたりコスト】 33円/m²
【注意点】 ① 石灰乳がダマにならないよう常にかき混ぜる(電動ドリルで攪拌)
② 長持ちさせるため、ムラなく丁寧に塗布する

効果

- 屋根裏温度の変化 約 15℃低下
- 牛舎内温度の変化 約 5℃低下

- ・夏場の採食量が増えた結果、枝肉重量が増加し、出荷成績の改善につながった
- ・夏場の飼養管理がしやすくなった



アカザを利用した鶏舎庇蔭(ひいん)



取組の概要

地域名 : 群馬県
経営形態 : 採卵鶏
飼養羽数 : 4,500羽

- 自作地の畑などに自生している雑草であるアカザを梅雨時に抜いてきて、すべての鶏舎(8棟)の東側と南側に移植。
- アカザは成長が早く、夏期には鶏舎屋根まで覆い、鶏舎内に日陰ができた。夏を過ぎると枯れるため、後処理も容易。
- 自生するアカザを用いるため、低コストで簡易。

【注意点】

鶏舎内の風通し確保のため、アカザの下部の茎から出る枝や葉を切るなどの手入れが必要。

効果

- 夏期の死亡羽数が激減
実施前(H19年)約700羽
→実施後(H20年)約40羽

